

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

みんなのために

南相馬市立原町第三中学校

3年 宮本 彩花

私は税に関することはよく分かりません。だから、税は必要なのだろうか、税金は本当に役立っているのだろうかなどと疑問に思うことがあります。消費税をいつも払っているがいったい何に使われているのかなど気になったので税金について調べてみることにしました。

調べてみて初めて知ったことは、税金には所得税、酒税など、私が予想していたよりも多くの種類があるということです。そして、これらは、国に納める国税と都道府県などに納める地方税に分けられています。国税には、所得税や法人税など、地方税には、都道府県民税や市町村民税などがあります。

また、所得税や住民税は、納める人の収入によって税率を決めており、公平に課税されています。これらの税金はどのように使われているのかというと、まず私達に身近な教育です。国はこれに歳出全体の約8パーセント、地方財政では約20パーセントも使っているそうです。中学生1人になると、年間約90万円にもなります。私は今まで、税金を身近に感じたことがなかったけれど、こういうところで、私達を支えてくれたことに驚きました。

次に、歳出全体の約10パーセントを占めているのが公共事業関係費です。道路をはじめ、上下水道や公園などの公共施設は、これによってできています。

そして、歳出の中で25パーセントと大きな割合を占めているのが、社会保障費です。

今、日本は高齢化が進んでいます。

その問題の一つに、社会保障の費用が増えていくということ、費用を負担する働き手が減っているということがあります。

福祉先進国のスウェーデンでは毎年、福祉関係の予算が、政治予算の50パーセントを超えているそうです。

そのかわり、労働者は給料の約半分を税金として納め、国民負担率は約70パーセントにもなるそうです。しかし、日本では税金を払っても将来の心配をしなければならぬのに対し、スウェーデンでは、これらを払えば将来は安心できるのです。

どちらとも税金の使い方は違って、どちらがいいとは分からないけれど、私は税金はより良い使い方をされるのが一番だと思います。この作文を書く中で、私の身近にも税金にかかわるものが沢山あること、私達が豊かに生活していくには、税金は欠かせないことが分かりました。

そして、税金はみんなに平等で、みんなの生活をより豊にしてくれるものであってほしいと思います。